

平成22年度 地方独立行政法人岐阜県立下呂温泉病院 決算概要

1 財務諸表の概要

(1) 貸借対照表

平成23年3月31日における法人の資産、負債、純資産の状況を表示

【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	18.9 億円	固定負債	25.3 億円
流動資産	40.4 億円	流動負債	7.9 億円
		【純資産の部】	
		資本金	24.9 億円
		資本剰余金	3.5 億円
		繰越欠損金	▲ 2.3 億円
計	59.3 億円	計	59.3 億円

(2) 損益計算書

平成22年度における法人の収益とこれに対応する費用を記載し、当期純損失を表示

収益総額	43.4 億円
営業収益	42.9 億円
営業外収益	0.5 億円
費用総額	45.7 億円
営業費用	44.4 億円
営業外費用	1.3 億円
当期純損失	▲ 2.3 億円
* 当期の総損失は、次期繰越欠損金として処分する。	

(3) キャッシュ・フロー計算書

平成22年度における現金・預金(キャッシュ)の増減を活動区分別に表示

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1.2 億円
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 7.4 億円
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1.4 億円
IV 資金減少額	▲ 10.0 億円
V 資金期首残高	16.1 億円
VI 資金期末残高	6.1 億円

(4) 行政サービス実施コスト計算書

法人の業務運営に関して、行政サービス実施コストに係る情報を集約して表示

I 業務費用	10.4 億円
(1) 損益計算書上の費用	45.8 億円
(2) 自己収入等(控除)	▲ 35.4 億円
II 機会費用	0.3 億円
III 行政サービス実施コスト	10.7 億円

2 収支の状況

(1) 収支概要

平成22年度純損失……………▲228,978千円 → 378,892千円(対前年度差額)
 (平成21年度純損失……………▲607,870千円)

収益全体では診療報酬改定の収益改善要因があったものの、患者数の減少からほぼ前年度と同水準となった。費用については、賞与の抑制や委託料、修繕費の経費削減といった経営努力により大幅に減少しており、収支差は前年度と比較して4億円程改善している。

(2) 前年度比収支状況

(単位: 億円)

	H21年度	H22年度	対前年度比	参 考	
収益	43.5	43.5	100%	診療単価	(H21) (H22)
うち入院収益	24.2	24.6	102%	入院	36,602円 → 38,457円
うち外来収益	9.1	8.9	98%	外来	9,079円 → 10,297円
うち運営費負担金	8.2	7.9	96%		
費用	49.5	45.8	93%	患者数	(H21) (H22)
うち給与費	25.7	25.4	99%	入院	66,164人 → 63,884人
うち材料費	7.4	7.5	101%	外来	100,162人 → 86,477人
うち経費	9.3	8.7	94%		
うち減価償却費	3.0	2.7	90%	一般病床利用率	(H21) (H22)
収支差	▲6.0	▲2.3	-		55.8% → 53.9%

(3) 前年度比収支変動の主な要因

ア 収益

- うち入院収益 (約0.4億円増) 診療単価の増加によるもの
- うち外来収益 (約0.2億円減) 患者数の減少によるもの
- うち運営費負担金収益(約0.3億円減) 共済組合追加経費負担分の減によるもの

イ 費用

- うち給与費 (約0.3億円減) 医師の減少及び賞与の抑制及び法人化に伴う会計処理の変更によるもの
- うち材料費 (約0.1億円増) 医業収益の増加に伴うもの
- うち経費 (約0.6億円減) 委託料、修繕費の減少によるもの
- うち減価償却費 (約0.3億円減) 法人移行時の償却資産の評価額減によるもの

ウ その他の要因

- H21年度に計上した経営安定化基金への拠出額によるもの (約1.5億円費用減)
- 法人化に伴う会計処理の変更によるもの (約0.8億円費用減)